

泉 明良 (IZUMI, Akira)

研究員

博士(農学)

- 2010 神戸大学大学院農学研究科博士前期課程修了
- 2010 (独)水資源機構 就職
- 2012 (独)水資源機構 退職
- 2013 神戸大学大学院農学研究科博士後期課程入学
- 2016 神戸大学大学院農学研究科博士後期課程修了
- 2016 施設工学研究領域 土構造物ユニット



研究者の横顔

<生い立ち>

実家は兵庫県西宮市。音楽科の教師から一転、バーテンダーに転職した父親の影響を強く受け、人生奔走中です。高校までは、サッカーや空手、バスケットボールと体を動かすことに夢中でした。大学で農業土木について学び、研究生生活に身を投じました。博士前期課程修了後、(独)水資源機構で就職し、ダム貯水池の地すべり調査やパイプラインの設計業務、工事発注業務等に従事しました。もう一度研究したいという思いに駆られて退職し、学生に戻りました。学位を取得し現在に至ります。

<研究テーマ>

学生時代は主としてパイプラインの動的挙動に関する研究に傾注していましたが、現在は海岸堤防の耐震性・耐津波性に関する研究をしています。2011年に発生した東日本大震災では、想定を超えた津波によって海岸堤防が破堤し後背地に甚大な被害を及ぼしました。また、今年発生した熊本地震においても、コンクリート被覆部のクラックや、堤防の沈下など、海岸堤防が被災しました。地震によって海岸堤防が被災すると津波越流時の耐侵食性が著しく低下してしまうため、海岸堤防は津波だけでなく地震に対しても強靱である必要があります。動的遠心力模型実験や数値解析によって被災メカニズムを解明し、地震+津波に強靱な海岸堤防技術を開発していきます。



熊本地震による海岸堤防の被害状況

<美術館巡り>

趣味の1つとして美術館に足を運んでいます。芸術に明るいわけではありません。好きな作品と対峙するだけで楽しくなります。また、最近は音声ガイドや解説文も充実しているので、特に知識がなくても楽しめます。国内では多くの美術館が撮影禁止になっていますが、海外では撮影許可の所があり、旅の思い出にうってつけです。



チューリッヒ美術館にて